



## 梅香崎の洋館群

写真に見る

1115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 6 □

明治30年代の梅香崎。右崎1番に西洋風赤煉瓦造りから長崎郵便局、大北電信の長崎郵便電信局が開局す社長崎局、日本郵船会社の洋館である。明治4(1871)年、本博多町で開業した郵便役所は明治7年(1874)年に長崎と佐賀の郵便電信の監督局となり、明治36年に長崎郵便局となった。明治23年には梅香崎7番に移転し、明治8年から郵便局と呼ばれた。明治19年には郵便局と通信局が合併し、ここ梅香横の木造洋館はデンマー

クの国旗を掲げる明治9年(1876)に新築された大北電信社。嘉永3(1850)年、ドバー海峡の海底電線敷設に始まる国際電信の拡大で、イギリスはインド・中国・東南アジアの事業を掌握していた。デンマークの国内電報を、大北電信社は外国商社の国際電報を取り扱った。日本郵船会社は明治29年(1896)から41年まで梅香崎3番に入居した。明治18年、郵便汽船三菱会社と三井系の共同運輸会社が合併してできた日本郵船会社は、日華連絡線の航路を引き継いだ。明治32~33年に上海―天津―長崎―香港―上海―漢口の各関底電線が繋がった。長崎では松ヶ枝で、大北電信社の一面を借りて長崎電信局が公衆電報の営業を始めた。長崎郵便局は市民なる上海航路を開設する。手前の小船群は団平船と呼ばれた艦船積み込みの石炭船。大型船は波止場に接岸できないため、石炭や食料、水は、沖仲仕が手配した小舟と人夫がバケツリのようにして船腹から艦船に積み込んだ。この同じ画像が絵はがきでも残されているから、撮影した竹下佳治の写真館は絵はがき制作も手掛けたようである。

# 郵便、電報、運輸の拠点

(長崎外国語大学長)

週1回掲載します